NEXT TEACHER 2024

あなたも学校の先生をめざしてみませんか？

MEIJI GAKUIN UNIVERSITY

Message

あなたも学校の先生をめざしてみませんか？

明治学院大学は学校の先生になりたいあなたを応援します

明治学院大学は、開学以来の英学と、人文社会科学教育の長い伝統を背景に、志の高い、優秀な教員を多く社会に送り出してきました。現在も多数の卒業生が全国の中学校、高等学校、特別支援学校で教員として活躍しています。2010年に幼稚園、小学校、特別支援学校の教員養成を目的とした心理学部教育発達学科が開設され、卒業生の活躍の場は、全国の幼稚園、小学校にも広範に広がっています。

明治学院大学を卒業したら、学校や幼稚園の先生になりたいと考えている学生のみなさんは多いに違いありません。しかし、先生になるためには課題が二つあります。ひとつは「教育職員免許状」を取得すること。もうひとつは「教員採用試験」に合格することです。

2016年に開設された「教職センター」は、この「教育職員免許状取得」と、「教員採用試験合格」を目指す学生のみなさんを、在学中はもちろんのこと、卒業後まで一貫してサポートする全学的組織です。

1年次から教職関連科目の履修を始めて、他の学生よりも多くの単位を取り、免許の種類によっては「介護等体験」をおこない、4年次には「教育実習」、そして「教員採用試験」へという具合に、みなさんが先生として教壇に立つまでの道のりは、決して平易なものではありません。一歩ずつ着実に歩みを進めていくことが必要です。みなさんのその歩みをサポートするのが「教職センター」の仕事です。

「教職センター」では、免許状に必要な授業単位を計画的に修得するための履修相談や、実習、採用試験に向けた情報、教員募集情報の提供を随時おこなうとともに、長年小学校長、中学校長、特別支援学校長、幼稚園長として豊富な実績と教育経験を持つ「教職キャリアアドバイザー」の先生方による論作文対策や模擬面接指導など、教職を志望するみなさんをマンツーマンで強力にバックアップする活動をおこなっています。

人が人を育てる、そして育てられるという教師の仕事は、一生を捧げて悔いのない仕事です。教員になりたいという明確な目的を持っている学生のみなさんも、教職に興味はあるが、何から始めればよいか分からないというみなさんも、まずは教職センターに相談に来てみてください。そして、教職センターを大いに利用してください。教職センターのスタッフ一同、みなさんの来室を心より歓迎いたします。

Contents

P3 特集 卒業生教員インタビュー
P5 学校教員をめざす前に
P7 教員になるまでのみちのり
P9 教員として採用されるまで ～4年間の流れ～
P11 教員採用の実際（小学校/中学校・高等学校/特別支援学校）
P13 教員採用の実際（幼稚園）
P15 保育園やその他子どもに関わる仕事
P17 教員採用試験の準備 ①（教職センターを利用しよう）
P19 教員採用試験の準備 ②（教育現場に出てみよう）
P21 教員採用試験の準備 ③（教育現場に出てみよう）
P23 学校教員の魅力とは？
P27 教員となる先輩たちからのメッセージ
P32 よくある質問Q&A

Interview
with Graduates

特集

卒業生教員インタビュー

教員は限りない可能性を持つ子どもたちの成長に携わる、大きな社会的責任とやりがいを伴う仕事です。中でも高等学校の先生は、大人への一歩を踏み出す生徒たちの成長著しい3年間を導き見守る仕事と言えるでしょう。英文学科を卒業し、新型コロナウイルス感染症の影響が続く2022年4月に高校教員となり、今年で教員生活3年目を迎える岩崎 紀香さん。教員という仕事についてお聞きしました。

岩崎 紀香 教諭
Iwasaki Norika
2022年3月　文学部英文学科卒業
高等学校教諭一種免許状（英語）取得
横浜市教員採用試験合格
横浜市立みなと総合高校勤務

NEXT TEACHER 2022
掲載時

「岩崎先生が担任でよかった」という言葉を励みに

── 高等学校教員の仕事

～勤務日の1日の過ごし方について教えて下さい。

現在は1年生の学級担任をしています。学級の生徒数は40名で英語科目を担当しています。具体的には「英語コミュニケーションI」「論理表現I」「プラクティカルイングリッシュ」という科目を受け持ち、各授業の人数は15名から25名程です。

朝は7時40分頃に出勤し、8時15分から年次教員による朝の打合せを行います。8時30分にホームルームを行い、8時40分から16時までは授業を行います。授業後の16時からは会議に出席し、17時30分から18時までは部活動の指導をしています。朝の打合せまでの時間や空きコマには、生徒の出欠確認や事務作業などをしています。18時から19時頃に退勤することが多いです。

～1年生の担任の先生、難しいところはありますか？印象に残っている出来事や生徒との関わりの中で大切にしていることがあれば教えてください。

心身ともにタフでいる必要があることが難しさの一つです。昨今の教育現場では、傾聴・受容するという過程が本当に求められていると感じます。難しいのは精神的に困り感を感じている生徒の話を真摯に聞きすぎてしまうと、自身の余裕がなくなり今目の前にいる生徒のサポートができなくなります。このバランスが難しいと感じています。

担当しているクラスで学校に行きたくても行けない生徒やその保護者から感謝の言葉をもらったことは、特に印象深いです。さまざまな悩みを抱えた生徒と向き合う際には、教員として時に悩み、苦しむこともあります。しかし「岩崎先生が担任でよかった」と言ってもらえると、ああここまで寄り添ってきてよかったと思うことができています。

生徒と接する中で心がけていることは、話かける時に「大丈夫？」と聞かないことです。人間は大人もそうですが、「大丈夫？」と聞かれると大丈夫でなくても「大丈夫」と答えてしまいます。その代わりに「どうしたの？」と声をかけることで生徒の悩みを引き出し、早めに困り感を認知するように心がけています。

先生になることが私にできる恩返し

── 学生時代について

～教師を目指したきっかけはなんですか？

中学1年生から3年生までお世話になった母校の英語の先生に出会ったことがきっかけです。小学校の時に英語が苦手だった私に、英語の楽しさ・素晴らしさを教えてくれました。英語を学び続けて一生の職にしたいと思った時、その恩師のような先生になることが恩返しではないかと考えたため、英語を集中的に学ぶことができる国際科のある高校に進学を決めました。

大学入学後、横浜市の教員採用試験受験を決意したのは3年生のときでした。私は大学3年生で留学をしたので、教員採用試験の準備は留学終了後である4年生の春頃から始めました。実際に受験したのは大学5年生の夏ですので、丸1年くらい準備期間がありました。受験後の流れとしては、10月頃に合格が決まり、3月頃に赴任校が分かりました。

～大学での学びで今に活かせていることを教えてください。

教員として役立っていると感じることは主に2つあります。1つ目は英文学科の教職ゼミで学んだTESOL（Teaching English to Speakers of Other Languages）です。3年生で英語教授法を学び、4年生のゼミで模擬授業を数回行うことで、インプットとアウトプットを行えたことが、特に初任の時に役立ちました。2つ目は交換留学の経験です。留学中の経験談を生徒に伝えられることはもちろんのこと、最近の高校生の中には在学中に準1級取得を目指すような高い英語力を持っている者も増えているので、長期留学をしたという経験が、自分の教科指導に対する自信にもなっています。

生徒の成長を感じることが何よりの喜び

── 教員という仕事の魅力

～教員という仕事の魅力はなんですか？

学校教員としてのやりがいと楽しさは、やはり生徒の成長を感じたり見たりすることができることだと思います。英語力の向上はもちろん、クラス担任をやっていると1年間接した生徒の人間としての成長を感じることができるため、この時に一番喜びを感じます。教壇に立って2年目なのでこれから経験できることを期待していますが、生徒から卒業後に連絡をもらったり、生徒が訪問してくれたりする時には、一番教員としてやりがいを感じるのではないかと思います。

岩崎さんが思う「教員に向いているのはこんな人」

① 真面目すぎず、我慢強い人

教員という仕事は完璧を求めてしまうと心も体も疲弊し、余裕がなくなって最終的に生徒に不利益が生じます。業務が多く多岐にわたるのは事実なので、常に100点を目指すのではなく、70点の合格点を目指すようにしています。

② 適切に他者の力を借りられる人

高校生を相手に接しているので、生徒の力も借りつつ、もちろん先輩方の心強いサポートも借りながら全て自分で抱え込まないことが大事です。

③ 生徒のために粘り強く指導できる人

人間を相手に仕事をしているので、問題解決までに時間がかかることが多いです。それでも生徒のためを想い、最後まで指導を続けられる人が向いていると思います。

～「教師はとにかく大変」というようなイメージもあります。実際に働いてみて違いなどありますか？

やはり体力勝負なところは事実です。実際半日くらい働いているので…。定時以降も帰れないのは部活動指導をしているからです。しかし大学生の時のイメージと大きく違ったところは、他業種とは異なり初任の年から年次休暇の数が担保されていることだと思います。通常の時期はなかなか休暇をとりづらいですが、夏休みや冬休みなどの長期休みになると連休をとりやすいのも事実です。またボーナスも他業種よりもらえるのではないかと思います。

「教員に向いているのはこんな人」のコラムでも述べた通り、自分が余裕をもって仕事ができるように、意識して働き方を考える必要はあります。

～「ライフワークバランス」大切ですね。お仕事がお休みの日はどうやって過ごしていますか？

お気に入りのアーティストの曲や芸人さんのラジオを聴きながら掃除や洗濯をして気分転換をしています。また旅行も好きなので、コロナ禍が明けてきた今年は海外旅行に行くのが目標です。

「親しみやすく尊敬される先生」に

～今後、目指す教師像について教えてください。

今後の目標は「親しみやすく尊敬される先生」を目指したいです。今は生徒と年齢が近いこともあり、親しみを感じてもらえると思います。しかし指導する際には尊敬されていることが最低限必要です。尊敬される大人になるために、授業を磨くことはもちろん、人として守るべきこと（時間やルール等）は守っていきたいです。

～教員を目指す明学生にメッセージをお願いします。

『NEXT TEACHER』を手に取った明学生の皆さん、私も学生の頃は教員という仕事をぼんやりと目指していましたが、本当にこの職でいいのか悩んだ時もありました。大学生活は忙しいと思いますが、少しでも教職に興味のある方は、インターネットばかりに頼るのではなく、ボランティアや教育実習を通じて実際の幼小中高生と接してみてください。きっと彼らの持つ無限のエネルギーに刺激を受け、教員という仕事への理解も深まると思います。この冊子を手に取った皆さんといつか学校で一緒に働けることを心待ちにしています。

学校教員をめざす前に

まず最初に明治学院大学での教員就職者状況や、代表的な採用形態、各学科で取得可能な教員免許をご紹介します。学校教員をめざす前に自分の志す道を確認しておきましょう。

学校教員とは？

子どもたちの学校生活全般を指導し、育てていく。それが学校教員の仕事です。

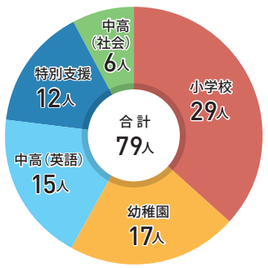
授業の教科指導はもちろん、次の世代を生きる子どもたちのために、保護者や地域と連携しながら適切な生徒指導、進路指導を行うことも重要な仕事です。

学校教員は、限りない可能性を持つ子どもたちの成長に携わる、大きな社会的責任とやりがいを伴う仕事と言えるでしょう。

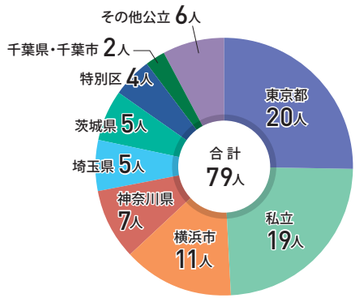
現在、「幼稚園」「小学校」「中学校、高等学校（義務教育学校、中等教育学校含む）」「特別支援学校」で教員として働く先生は、全国に100万人以上います。明治学院大学の2023年3月卒業、修了者の教員就職者データは下記のとおりです。

明治学院大学 2023年3月卒業修了 教員就職者データ

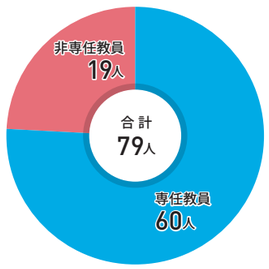
▼学校種別



▼公立（自治体別）・私立割合



▼雇用形態別



学校教員の採用（雇用）形態

学校教員には複数の採用（雇用）形態がありますが、そのうち代表的なものを示します。

●専任教員

期限の定めのない雇用契約の教員で、企業でいえば正社員に該当します。教員採用試験は主にこの専任教員の採用です。また「学校の先生」といえば、この専任教員をさすことが多いです。

●臨時的任用教員（会計年度任用教員）・常勤講師

1年間など期限に定めがあって雇用されます。現役教員の妊娠出産休暇や育児休業の取得などの理由により欠員が生じた際、代替として勤務する場合等が相当します。また私立学校などでは当初1年間は、「常勤講師」としての身分で採用し、その後専任教員として雇用するかを決める場合もあります。教員としての職責等は専任教員と変わらず、担任等を受け持つこともあります。給与等も同年齢の専任教員と遜色ありません。

●非常勤講師

1年間など雇用契約に期間があるのは、臨時的任用教員と同じです。授業ごとの雇用（授業だけを担当する）が一般的です。主に高等学校での採用が多いです。

各学科で取得可能な教員免許状一覧

本学の各学科において取得できる教員免許状は、次のとおりです。

学部	学科	中学校教諭	高等学校教諭	幼稚園教諭 小学校教諭 特別支援学校教諭
文学部	英文学科	英語	英語	
	フランス文学科	フランス語	フランス語	
経済学部	経済学科	社会	地理歴史・公民・商業	
	経営学科	社会	地理歴史・公民・商業	
	国際経営学科	社会	地理歴史・公民・商業	
社会学部	社会学科	社会	地理歴史・公民	
	社会福祉学科	社会	公民	特別支援学校
法学部	法律学科	社会	地理歴史・公民	
	消費情報環境法学科	社会	公民・情報	
	政治学科	社会	地理歴史・公民	
国際学部	国際学科	社会	地理歴史・公民	
心理学部	心理学科	社会	公民	
	教育発達学科	英語 （二種免許）※1		幼稚園※2 小学校※2 特別支援学校※2

※1　他学科履修による副免許。各学年5～10人程度、選考あり。
※2　選択するコースによって取得できる免許は異なります。

本学の教職課程を履修しながら、他大学の通信教育を受講して、小学校教諭二種免許を取得するプログラムもあります（教育発達学科・フランス文学科を除く）。このプログラムは、別途授業料が必要です。

所属学科で希望する教科の免許が取得できない場合、取得可能な他学科で必要な科目を聴講し、その免許を取得する「他学科聴講」という制度があります。詳細は、教務部教職担当窓口でご相談ください。

保育士資格は全ての学科で取得可能です。詳細は15ページをご確認ください。

教員になるまでのみちのり

教員になるまでの大まかなみちのりをまとめてみました。
皆さんが教員になるには、「❶教員免許状を取得」し、「❷教員採用試験に合格する」必要があります。

❶ 教員免許状を取得する（相談窓口：教務部教職担当）

幼稚園、小学校、中学校、高等学校、特別支援学校の教員になるには教員免許が必要です。教員免許は学校種と教科ごとに取得します。以下の要件を満たし、都道府県教育委員会に授与申請を行うことで取得できます。

教員免許取得までのプロセス

教員免許取得に必要な科目の単位修得（1～4年次）

各学科を卒業するために必要な単位にプラスして「教員免許取得に必要な科目」を単位修得する必要があります。
詳細は履修する年度の「教職課程履修要項（諸資格）」を必ず確認してください。
（教育発達学科の方は「履修要項（心理学部）」を確認してください。）

↓

介護等体験（3年次）

小学校・中学校の教員免許取得には介護等体験が必要です。社会福祉施設で5日間、特別支援学校で2日間、計7日間の体験を行います。体験には2年次からの手続が必要です。

↓

教育実習（4年次）

教員として学校現場で実習をします。希望する免許によって実習期間は変わります。（2週間～4週間が目安です。）

↓

大学卒業

大学を卒業し、学位を取得することが教員免許の取得要件です。もし教員免許に必要な単位をすべて修得し、介護等体験や教育実習を終了していても、大学を卒業できなければ教員免許は取得できません。

↓

教員免許状取得！

❷ 教員採用試験に合格する（相談窓口：教育キャリア支援課）

教員採用試験は、4年生の夏に行われることが多いですが、近年では3年生の時点で前倒し選考が行われるケースも増えています。主に、「筆記試験」を経て「人物試験」に進みます。試験の順番や種類は、受験自治体等によって異なります。

教員採用試験合格までのプロセス

筆記試験

主として、教養知識や技能を見ることに主眼を置いた試験です。

試験例

教職教養……教育法規や教育心理など主に教育分野に関わる教養
一般教養……高校までに学習した一般社会人としての教養
専門教養……自分が教える教科の専門的知識・技能や学習指導要領等
論作文……さまざまな教育課題等についての自分の考えを筋道立ててまとめる

↓

人物試験

教員としての人物適性を見ることに主眼を置いた試験です。近年の教員採用試験ではこちらをより重視する「人物重視」の傾向が強くなっています。

試験例

個人面接
集団面接
集団討論（グループディスカッション）
模擬授業 …… 一定時間実際に受験教科の授業を行う
場面指導 …… いじめの場面など特定の教育場面を想定して指導
集団行動 …… 他の受験生を生徒役とし、気をつけ・休め等の集団指導
実技試験 …… 幼稚園の場合は模擬保育・ピアノの弾き歌い、英語なら英語面接など
適性検査 …… 職業適性や性格特性などの検査（WEB実施の場合あり）

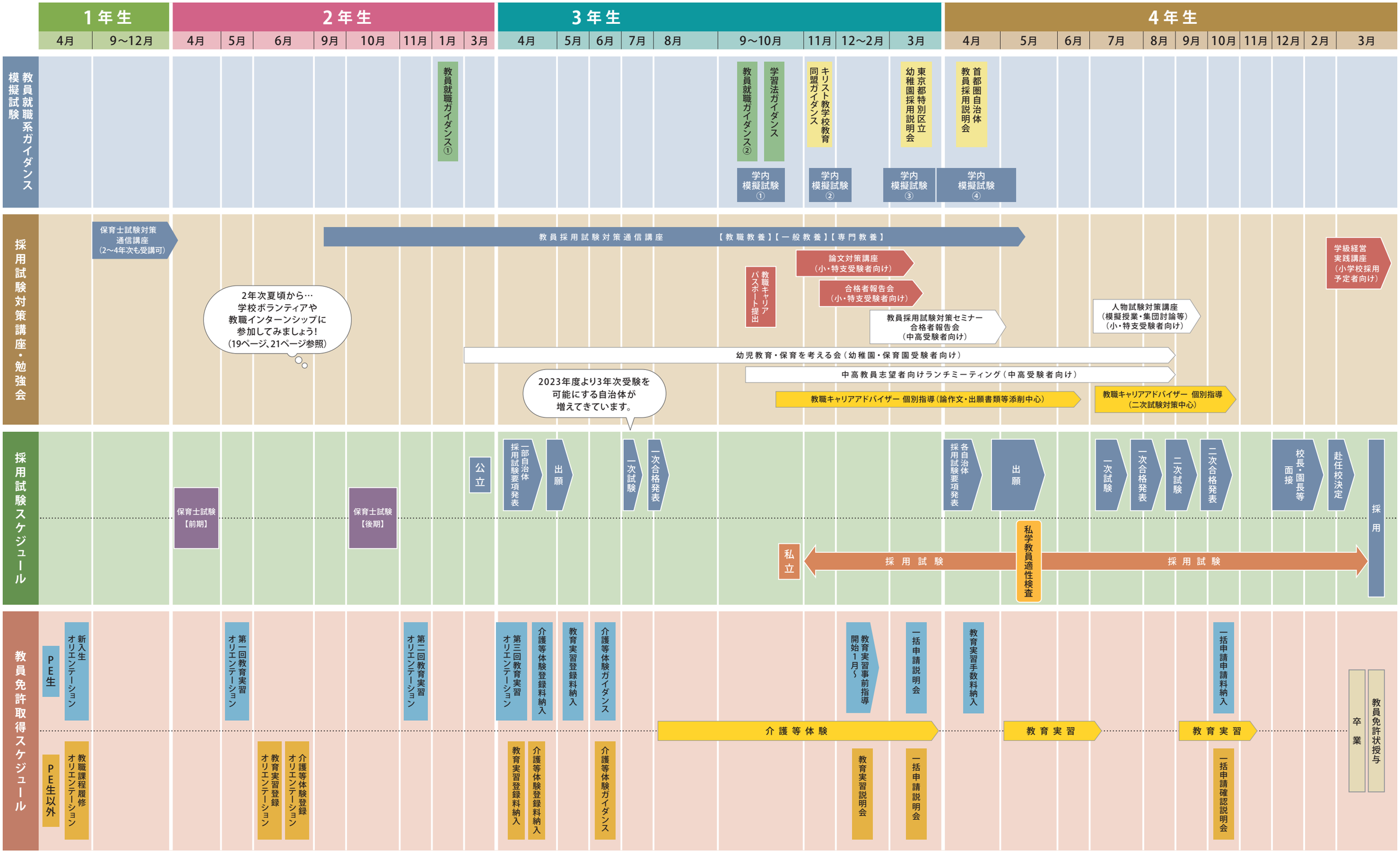
↓

教員採用試験合格！

教員として学校　の教壇へ!!

教員として採用されるまで ～4年間の流れ～

教員採用にかかわる領域を中心に、4年間の流れを一例として表にしてみました。3～4年次に挑む採用試験、開講している対策講座やガイダンスのうち主なもの（実績）も掲載しています。



※公立学校の採用試験スケジュールは、主に首都圏の事例をもとに記載しています。

教員採用の実際（小学校／中学校・高等学校／特別支援学校）

ここからは教員の採用がどのように行われているのか、少し詳しくみていきましょう。
採用方法は「公立学校」と「私立学校」で異なります。

公立学校教員の採用

教員を進路として考える方の多くが公立学校教員をめざすことから、最初に公立学校の採用についてみていきます。

各地方自治体が行います

都道府県および主に政令指定都市がそれぞれの設置、運営する学校（公立学校）のために行います。日程は近接する自治体で統一されている場合が多く、併願が難しくなっています。採用についての情報は、各都道府県や政令指定都市の「教育委員会」のホームページを確認してみましょう。

Point!

採用試験は、校種・教科ごとに行われるのが一般的ですが、自治体により複数教科や複数校種をまとめて実施する場合があります。

採用試験の実施枠の例 小・中高・特支

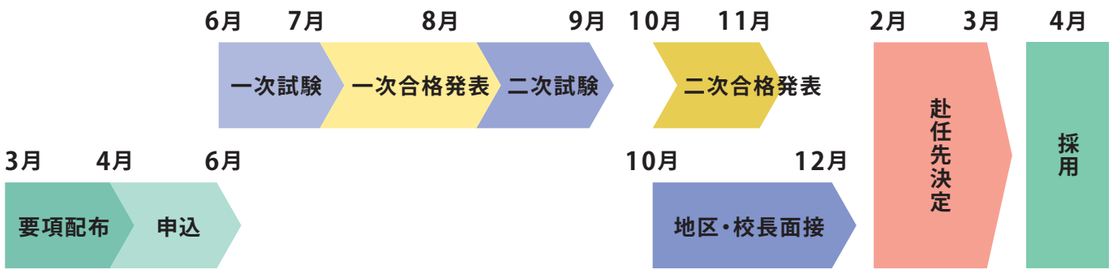
小学校
中学社会
高校公民
高校地理歴史・公民
※地理歴史・公民双方の免許取得（見込）が受験資格（例：神奈川県）
中高英語
※中学・高校双方の英語免許取得（見込）が受験資格（例：東京都）
特別支援学校（小学部）
特別支援学校
※小学部・中学部・高等部をまとめて一つの枠として採用

など

原則として年1回実施されます

年度ごとに採用（毎年度4月1日付での採用）が基本のため、たとえば首都圏の場合、採用の前年7月～9月頃にかけて試験が行われ、9月～10月頃に最終合格（名簿搭載）者が発表されることが多いです。
以下に採用の流れを簡単にまとめました。

〈公立学校教員採用の流れ（4年生受験の場合）〉



※2023年度より、公立学校教員採用試験の3年生受験を可能にする自治体が増えてきています。また、2024年度以降は、現状よりも採用試験を1～3ヵ月前倒しで行う「早期化」や新たに別の時期に試験を追加する「複線化」を実施する自治体もあります。

私立学校教員の採用

学校には公立学校のほかに私立学校もあります。ここでは私立学校の採用についてみてみましょう。

各学校が行います

自治体ごとの共通した採用試験はありません。民間企業と同じく学校ごとに行われ試験内容も千差万別です。ただ面接や模擬授業が中心になる傾向があります。

私立学校は毎年募集があるわけではなく、該当教科の欠員が出た場合に採用が行われるのが一般的です。募集時期も学校により異なります。また私立小学校や特別支援学校は学校数が相対的に少ないため、採用の中心は主に中学校や高等学校です。

私立学校では、最初から専任教員としての採用は少なく、最初の1年間は常勤講師（1年間など期限に定めがある採用　5ページ参照）などの身分で採用し、その後専任教員として雇用するかを決める場合が一般的です。

※これまで東京都、静岡県、愛知県、兵庫県、広島県、福岡県、長崎県の各私学協会で実施していた私学教員適性検査は、2023年度実施を最後にほとんどの私学協会で廃止されました（静岡県のみ存続するが、内容変更あり）。私学教員適性検査廃止後の対応は、私学協会ごとに異なります。

採用へのアプローチ

大きく2つに分けられ、求人や公募に応募する方法と、各自治体の私学協会に登録する方法があります。

（a）求人や公募に応募する方法（代表的なもの）

- 大学に送られてくる求人をチェック
- 日本私学教育研究所のサイト内「教職員採用情報」をチェック
- 複数の学校が集まる合同説明会に参加
- キリスト教学校教育同盟の各種イベントに参加／教職員就職支援の登録
- 希望する学校に直接求人を確認

（b）各自治体の私学協会に登録する方法

各都道府県には私学協会があり、中には教員志望者の登録制度を設けている場合があります。

私学教員適性検査廃止後は独自のエントリー制度を新たに設けたり、「教員採用.jp」（私立学校教員の求人情報サイト）を利用したりすることが多いようですが、詳しくは志望される私立学校が加盟する私学協会のホームページなどで確認してください。

首都圏　主な私学協会

東京都：東京私立中学高等学校協会
　　東京私立初等学校協会（小）
神奈川県：神奈川県私立中学高等学校協会
千葉県：千葉県私立中学高等学校協会
埼玉県：埼玉県私立中学高等学校協会

教員採用の実際（幼稚園）

小学校、中学校・高等学校、特別支援学校の採用についてみてきましたが、
幼稚園の教員採用も同じく公立と私立で異なります。

公立幼稚園の採用

自治体によっては公立幼稚園を設置しているところがあります。

公立幼稚園の教員になるためには、各自治体が実施する採用試験に合格しなければなりません。合格者に対する倍率は年によって変動するものの、東京都の場合、倍率が約10倍程度になることもあり少し高めです（参考：2023年度採用「東京都特別区立幼稚園教員採用候補者選考」では、受験者総数182名、合格者16名、補欠者52名、採用者40名）。しかし、本学では合格者が出ており、頑張ればチャンスは十分にあります。公立幼稚園の教員の身分は地方公務員になります。幼稚園教員を進路に考えている人は検討するとよいでしょう。

ただ、募集を行う自治体と行わない自治体がありますので、注意が必要です。

また、受験資格として「保育士」「幼稚園教諭」の双方を取得見込であることを課す自治体もあります。

首都圏の採用試験の実施主体（例）

東京23区	東京都特別区人事・厚生事務組合
千葉県浦安市	浦安市（市役所総務部人事課）
千葉県習志野市	習志野市（市役所総務部人事課）
神奈川県秦野市	秦野市（市役所総務部人事課）
埼玉県加須市	加須市（市役所総務部職員課）

（　）内は取扱部署

（2023年度実績）

〈公立学校教員採用の流れ〉

（例：2023年度（2022年度実施）
東京都特別区立幼稚園教員採用候補者選考）

- 3月下旬　要項発表
- 5月初旬 締切り　申込
- 6月下旬　一次試験
- 7月下旬　一次合格発表
- 8月中旬　二次試験
- 9月中旬　二次合格発表
- 9月下旬　採用候補者説明会／各区教育委員会による面接
- 4月　採用

二次合格者は採用候補者として名簿に登録され、各区による面接等を経て、採用者が決まります。

私立幼稚園の採用

私立幼稚園の場合も他校種と同じく自治体ごとの採用試験はなく、幼稚園ごとに採用が行われます。

教育実習やボランティア等でお世話になることをきっかけとして採用されるケースもありますが、就職したい地域を考えて幼稚園を調べ、教育方針を見て興味を持った園に連絡し、数園見学のうえ、その中で就職したい園を受験して採用される場合も多くなってきています。

採用試験の実施枠（例）

- 幼稚園教諭
- 保育士
- 幼稚園教諭・保育士（一括採用）

※一括採用の場合、幼稚園教諭と保育士資格の双方の取得（見込）を受験資格にしている自治体もあります。

採用へのアプローチ

こちらも求人や公募に応募する方法と、連合会等に登録する方法があります。

どのようなアプローチの方法を取るにせよ、さまざまな幼稚園を見学し、今の幼稚園の現場をよく知るようにするとよいでしょう。

（a）求人や公募に応募する方法（代表的なもの）

- 大学に送られてくる求人をチェック
- 幼稚園連合会や民間の就職情報会社が主催する、幼稚園フェアや説明会に参加
- 幼稚園連合会や幼稚園協会の求人情報サイトを確認
- 希望する園に直接求人を確認

（b）幼稚園連合会・幼稚園協会に採用希望者登録する方法

連合会（協会）によっては採用希望者の登録制度を設けている場合があります。

3年生になったらそれぞれのホームページ等で確認しましょう。

首都圏 おもな幼稚園連合会・協会

- 東京都私立幼稚園連合会
- 神奈川県私立幼稚園連合会
- 横浜市幼稚園協会
- 全千葉県私立幼稚園連合会
- 全埼玉私立幼稚園連合会

など

保育園やその他子どもに関わる仕事

教員以外にも、子どもたちに関わる仕事は数多くあります。
中でも質問が多く、かつ近年特に需要の高まっている保育士を中心に説明します。

保育園に勤めるには

保育園（保育所）に保育士として勤めるためには、国家試験である保育士試験に合格し、かつ各自治体（公立）や保育園等（私立）が行っている採用試験に合格することが必要です。まず保育士試験についてみてみましょう。

保育士試験

保育士試験は国家試験で、年2回行われています。9科目の筆記試験に合格したのち、実技試験にも合格すれば保育士資格を取得することができます。保育士は教員免許取得の有無にかかわらず、本学の全ての学科の学生が在学期間中から挑戦することができます。試験の概要は以下のとおりです。

〈試験の流れ〉 年2回（4月と10月） ※ 2023年実績

前期	1月	4月下旬	6月上旬	7月上旬	8月上旬
後期	6月～7月	10月下旬	11月下旬	12月上旬	1月中旬
	出願	筆記試験	筆記結果通知	実技試験	合格通知

保育士試験の受験を考えている方は、一般社団法人全国保育士養成協議会ホームページ https://www.hoyokyo.or.jp/ から、受験申請の手引きの請求方法、試験日程等確認してください。

筆記試験（2024年予定）

試験科目

各回それぞれ2日間に分け、右の9科目の試験が実施されます。

科目
保育の心理学
保育原理
子ども家庭福祉
社会福祉
教育原理
社会的養護
子どもの保健
子どもの食と栄養
保育実習理論

合格基準

各科目において満点の6割以上得点すれば合格とされます。1回の試験で全科目合格しない場合でも一部の合格科目を一定期間担保でき、その間に合格できなかった科目に再挑戦し結果として全科目合格できれば筆記試験は合格となります。ただし『教育原理』および『社会的養護』はセット科目と呼ばれ、同一実施回の試験で両科目とも満点の6割以上が必要とされています。

本学では学内にて左の全ての科目を対象とした「保育士資格取得対策講座」を開講し、サポートを行っています。

実技試験（2024年予定）

筆記試験の全9科目に合格※すれば、次の実技試験の受験資格が得られます。
この実技試験にも合格し、所定の手続をすれば保育士資格を取得できます。

- **音楽に関する技術（例：ピアノの弾き歌い）**
- **造形に関する技術（例：保育課題の描画）**
- **言語に関する技術（例：素話（すばなし））**

左記から2科目選択

※合格した筆記試験科目の有効期限等については、一般社団法人全国保育士養成協議会ホームページを確認してください。

保育園の採用

保育園についても、幼稚園同様公立と私立で採用形態が異なります。

公立保育園は、主に各市や区などが採用試験を行っており、これを受験して合格し採用される必要があります。（幼稚園教員と保育士をまとめて採用している自治体もあり、幼稚園教員免許と保育士資格双方の取得（見込）を受験資格にしている場合がありますので注意しましょう。）

私立の保育園（保育所）は園ごとに採用を行っていますので、その園が実施する採用試験を受けて合格し、採用される必要があります。こちらも保育士資格の取得（見込）が採用条件となっている場合がほとんどです。

教職センターでは、保育園の求人紹介はもちろん、幼児教育や保育に精通する教職キャリアアドバイザーによる個別相談や指導などのサポートを行っています。

幼稚園・保育園（保育所）・認定こども園の違い

幼稚園：（対象：3～5歳）
小学校以降の教育の基礎をつくるための幼児期の教育を行う学校

保育園（保育所）：（対象：0～5歳）
就労などのため家庭で保育のできない保護者に代わって保育する施設

認定こども園：（対象：0～5歳）
幼稚園と保育所の機能や特長をあわせ持ち、地域の子育て支援も行う施設

（内閣府よくわかる「子ども・子育て支援新制度」を参考に作成）

幼稚園は学校ですので教育施設、保育園は保育施設、認定こども園は双方の機能と特長を持つ施設と考えればわかりやすいでしょう。幼稚園と保育園はそれぞれに目的や役割、特長が異なります。また各園ごとに教育方針・保育方針を持って運営されていて、どちらが優れているというものではありません。近年は預かり保育を行う幼稚園も増え、活躍の場が広がってきています。双方の役割を持つ認定こども園も増えてきています。

その他子どもにかかわる仕事

子どもにかかわる仕事はさまざまです。公的な仕事としては、たとえば「児童指導員」や「児童の遊びを指導する者（児童厚生員）」などがあります。

児童指導員

家庭の事情や障害などのため、児童福祉施設で生活を送っている0～18歳までの児童を親など保護者に代わり、健全に成長するように生活指導します。

児童の遊びを指導する者（児童厚生員）

地域の18歳未満のすべての児童を対象に安全な遊び場や学習の場を提供し、その健康の増進と豊かな情操を育む一方、社会関係になじませるため、さまざまな指導を行います。

（独立行政法人 福祉医療機構 HP 福祉のしごとガイド資格・職種編 しごとの内容より）

前者は主に児童養護施設や乳児院、後者は主に児童館などで職務に当たります。
他にも民間企業を含めると子どもにかかわる仕事は数多くあります。さらに知りたい場合は教職センターの窓口をたずねてみてください。

教員採用試験の準備 1

教職センターを利用しよう

教職センターは、教員を目指す学生のために各種サポートを行っています。
筆記試験、人物試験の本格的な対策が始まる3年生頃はもちろん、教職に興味はあるものの何から始めればよいかわからないという1、2年生もぜひ積極的に活用してください。
どうぞお気軽に相談にいらしてください。

教職キャリアアドバイザーによる丁寧な指導

教職センターには、学校長・園長などとして活躍してこられた経験豊富な「教職キャリアアドバイザー」（23ページ参照）から個別相談はもちろん、論作文指導や模擬面接などの実践的指導が受けられます。

教職キャリアアドバイザー個別相談予約のしかた

1 **教職センターに「教職キャリアパスポート」を提出**

2 **ポートヘボン → キャリア支援 → 教職キャリアアドバイザー予約システムから相談予約**
（原則として毎週水曜日午後4時頃に次週の予約受付開始）
希望の校種（幼・小・中高・特別支援）、相談方法（対面またはWEB）を選択

【対面方式】白金キャンパスで行います　【WEB方式】MicrosoftTeamsを使用します

教職キャリアアドバイザー主催の各種勉強会や講座も充実

（勉強会の一例）

●小学校教員採用受験者ミーティング

小学校教員を目指す3、4年生が対象です。教育現場に直結した模擬授業や場面指導などを通して、採用試験の準備を行うとともに、教員となってからすぐに役立つ資質能力を育成します。

●幼児教育・保育を考える会

幼稚園、保育園教諭を目指す3、4年生が対象です。幼児教育の基本を学び、教材研究や事例の検討などを通して保育のスキルアップを目指していきます。国公私立幼稚園の見学など多彩なプログラムが用意されています。

●中高教員志望者向け ランチタイムミーティング

中学・高等学校教員を目指す3、4年生が学科を越えて参加しています。お昼休み開催で模擬授業や集団討論なども行います。

●特別支援学校人物試験対策講座

特別支援学校教員を目指す4年生を対象に、二次試験直前（8月）に集中講座を開催しています。受験する自治体別の指導や個人・集団面接の練習などを行います。

小学校教員採用受験者ミーティング

幼児教育・保育を考える会

中高教員志望者向けランチタイムミーティング

教員採用試験対策講座／教員採用試験対策模試

筆記試験、人物試験それぞれの試験傾向に併せた対策講座を各種開講しています。
【筆記試験】教員採用試験に精通している出版社の通信講座が受講できます。手元に届く教材とテストを使って自学自習が可能です。併せて講義動画も配信されるので効果的な学習ができます。（有料/大学からの補助あり）
【人物試験】教職キャリアアドバイザーの先生方が面接練習はもちろん、各種勉強会を通して模擬授業や集団討論などの指導も丁寧に行います。（無料）
また、教員採用試験対策のための模擬試験を割引価格で提供しています。

参考書・過去問題集各種資料の閲覧・貸出

さまざまな受験自治体、学校種の参考書・過去問題集を揃えています。一部、貸出も可能です。また教員に関する雑誌や新聞なども自由に閲覧できますので、最新の教育情報はここで入手しましょう。合格への秘訣が詰まった先輩方の「採用試験活動報告」も閲覧できます。

教員就職相談

教員就職に向けて、希望進路に進むためには今何をすればよいのか？　困ったこと、心配なことは何でも相談してください。学校現場の実際を良く知るための「学校ボランティア」や「教職インターンシップ」の参加についてもアドバイスしています。

教職センター

教職センターHP

HPではニュースや詳細な情報を掲載しています。

PCから
https://www.meijigakuin.ac.jp/teachers/

スマホから

場所

教育キャリア支援課
白金キャンパス
本館1階

※横浜キャンパスでは、「5号館キャリアセンター」内に教育キャリア支援課スタッフによる定期的な開室日を設けています。

教員免許取得に向けたサポート

教員免許取得に関わる履修の仕方や教育実習・介護等体験に関すること、教員免許の申請方法等は、各キャンパスの「教務部」で相談してください。
（白金教務部：本館2階、横浜教務部：1号館1階）

教員採用試験の準備 2

教育現場に出てみよう

教育現場の実際をよく知るためのしくみや制度があります。
ここではしくみや制度の説明とともに学校ボランティアを体験した先輩のメッセージを紹介します。

学校ボランティア

教育現場の実際をよく知るためのしくみとして「学校ボランティア」があります。

実際に現場に飛び込むことにより、学校生活にかかわるさまざまな活動を体験することができます。教員を目指す皆さんは、授業の空き時間などを利用して学校ボランティアを実践しましょう。1年生の間は履修する授業も多いため、2～3年生くらいから始める方が多いです。

筆記試験のための準備が、主に頭で考える対策とするなら、学校ボランティアでの現場経験は、全身で現場を捉え、見て、聞いて、感じ、考える対策です。

自治体のホームページや区市町村の広報等で募集を行っていることもありますのでチェックしてみてください。もちろん、ボランティアをしてみたい学校や管轄の教育委員会に直接問い合わせてみても構いません。

また教職センター前の掲示板に募集案内を掲示していることもありますので、興味がある方はぜひ、教職センターに相談にいらしてください。

学校ボランティアでの活動例

- 先生方の授業のサポート
- 一斉授業で学習支援が必要な児童・生徒への個別支援
- 部活動の指導への参加
- 学校行事（遠足や修学旅行等）の引率サポート
- 登下校の安全指導
- 感染症対策のための校内消毒作業の手伝い
- ミニテストの丸付け
- 教員の事務仕事の手伝い

◉学校ボランティアの始め方

各自治体などが公募している「学校ボランティア制度」に申し込む

- よこはま教育実践ボランティア（横浜市）
  ※大学での手続きが必要です。
- スクールライフサポーター（神奈川県）
  ※大学での手続きが必要です。
- 東京学校支援機構 TEPRO Supporter Bank（東京都）
  ※大学での手続きは不要です。

自治体によってはシステム化された「学校ボランティア制度」があります。初めてボランティアを行う方も申し込みがしやすくお勧めです。

Point! 学校ボランティアではここを見よう！　ここを考えよう！

- ☑ 大学の授業で学んだことが、現場でどのように活かされ、実践されているのか？
- ☑ 先生方は、子どもたちや保護者の方々と日々どう接しているのか？
- ☑ 学校は組織として日々どのように動いているか？（先生同士、専門家とのチームワークは？）
- ☑ 学校は、社会（地域、教育行政など）とどのような連携や関係にあるのか？
- ☑ 学校の現状を踏まえた、あなた自身が考える学校のあるべき姿とは？

学校ボランティアを経験した先輩からメッセージ

Q 学校ボランティアを始めたきっかけを教えてください。

A 自分が学生でいるうちに「教員という仕事はどういうものか」を理解し、この仕事のやりがいや苦労を体験したいと考えたのがきっかけです。色々なボランティアから自分にあったものを探している中で、小学校6年生の2泊3日の修学旅行に帯同する「引率ボランティア」の募集があることを教職センターから聞き、大学3年生の時に参加しました。

Q 学校ボランティアの具体的な内容について教えてください。

A 引率ボランティアの主な役割は、修学旅行に帯同し、担任の先生のサポートをすることです。具体的には、児童の健康状態や安全の確認、部屋での生活や掃除・食事の補助、班行動の補助・見回りなどを行いました。

修学旅行中は、児童に多くのことが任せられており、教員が積極的に関わって指示をするということはありません。しかし、児童の主体性を尊重しながらも、児童が安全に行動できるように見守ることが大切です。引率ボランティアとして先生方からの指示をよく聞きながら、電車やバス移動、体験学習など、様々な場面で児童のサポートに入り行動を共にしました。宿泊体験学習に参加した際には、体験学習の準備やウォークラリー大会の見回りも行いました。

小学校教諭
西須 崇人 Saisu Takato
社会学部社会学科 2024年3月卒業
千葉県教員採用試験合格

Q 学校ボランティアから学んだことを教えてください。

A 「教員という仕事はどういうものか」という実感がわきました。これまでは教員という仕事について児童目線からしか考えることができませんでしたが、学校ボランティアに参加したことで、教員と児童の間の目線から両者を見ることができ、私の教員に対するイメージが大きく変わりました。また、子どもたちの素直さや元気、支え合って行事を成功させようとする姿勢を間近で見ることで、教員のやりがいを感じることができました。一生懸命に頑張る子どもたちに関わることができて、現場の先生の楽しさや大変さを感じることができたことが大きな成果です。

Q 教員を目指す後輩たちへ一言

A 教員はブラックだというイメージがあり、目指す人が減っているようにも思いますが、私は学校ボランティアを経験してたくさんのやりがいを感じることができました。児童たちと過ごす時間や成長を感じる瞬間に立ち会えることは、教員の一番のやりがいであり、楽しさだと思います。現場の空気を感じ、子どもたちから学ぶことはたくさんあります。学校ボランティアに参加することは、この喜びや楽しさを体験し、学校や先生について考えられるきっかけになります。私もこれからいろいろな児童に出会い、児童の成長の瞬間に教員として関われることがとても楽しみです。

教員採用試験の準備 3

教育現場に出てみよう

教育現場の実際をよく知るためのしくみや制度があります。ここではしくみや制度の説明とともに教職インターンシップ（教師塾）を体験した先輩のメッセージを紹介します。

教職インターンシップ（教師塾）

自治体によっては、カリキュラムを組んで総合的に優れた教師を育てようとするしくみがあります。これが教職インターンシップとも言われる教師塾の制度です。

教師塾は自治体ごとにさまざまな名称・内容で設けられており、千差万別です。教師塾は練られたカリキュラムのもとで教員となるための資質能力を高めることを目的にしています。実際の教員採用試験においても、自治体によっては塾生を対象とした採用枠が設けられていたり、試験の一部が免除される場合があります。

首都圏の主なインターンシップ制度の紹介

募集時期や応募資格などはそれぞれの教師塾によって異なりますが、
2年生で応募して3年生から開始、または3年生で応募して4年生から開始というケースが多いです。

自治体	名称	対象等
東京都	東京教師養成塾	東京都の「小学校」「特別支援学校」の教員を目指す学生が対象。入塾者選抜試験受験に際しては大学からの推薦が必要です。
神奈川県	かながわティーチャーズカレッジ	神奈川県の「小学校」「中学校」「高等学校」「特別支援学校」の教員を目指す学生が対象。応募に際して大学での手続きは不要です（選考試験に自由応募）。
横浜市	よこはま教師塾アイ・カレッジ	横浜市の「小学校」「中学校」の教員を目指す学生が対象。応募に際して大学での手続きは不要です（選考試験に自由応募）。
千葉県・千葉市	ちば！教職たまごプロジェクト	千葉県内の「小学校」「中学校」「特別支援学校」の教員を目指す学生が対象。応募に際しては、大学での手続きが必要です。
相模原市	さがみ風っ子教師塾	相模原市の「小学校」「中学校」の教員を目指す学生が対象。応募に際して大学での手続きは不要です（選考試験に自由応募）。
川崎市	かわさき教師塾「輝け☆明日の先生」	川崎市の「小学校」「中学校」「高等学校」「特別支援学校」の教員を目指す学生が対象。応募に際して大学での手続きは不要です（選考試験に自由応募）。
埼玉県	彩の国かがやき教師塾	埼玉県（さいたま市を除く）の「小学校」「中学校」「高等学校」「特別支援学校」の教員を目指す学生が対象。応募に際して大学での手続きは不要です（選考試験に自由応募）。
さいたま市	さいたま市教師塾「夢」講座	さいたま市の「小学校」「中学校」「高等学校」「特別支援学校」の教員を目指す学生が対象。応募に際して大学での手続きは不要です（選考試験に自由応募）。

※2024年1月現在のデータです。詳細は、各教師塾のホームページで確認してください。

教職インターンシップ（教師塾）に参加した先輩からメッセージ

Q 参加した教職インターンシップについて教えてください。

A 「かながわティーチャーズカレッジ」に参加しました。2週間に1度のペースで、日曜日に神奈川総合教育センターにて教育に関する講義を受け、グループディスカッションや小論文練習、模擬授業練習を行いました。また、児童への学習支援や教員の仕事の見学、学校行事の運営のお手伝い、教育事務所での模擬授業検討、教育講義への参加なども行いました。

「かながわティーチャーズカレッジ」での受講をきっかけに、以前関わりのあった小学校でスクールライフサポーターとしての活動を再開しました。週に2～4回は小学校へ行き、支援の必要なクラスや児童への学習支援や学校生活のサポートを行いました。校外学習への付き添いもしました。

小学校教諭
藤若 千晴 Fujiwaka Chiharu
心理学部教育発達学科 2024年3月卒業
神奈川県教員採用試験合格

Q 参加したきっかけを教えてください。

A 神奈川県の教員採用説明会で「かながわティーチャーズカレッジ」の存在を知り、教員としての実力向上が期待できることに魅力を感じました。また「必ず教員になりたい」という強い希望を持ったため、合格のためのより良い選択として参加しました。

Q 教職インターンシップを経験してよかったことは何ですか？

A 「かながわティーチャーズカレッジ」で、講師の先生から教育に関する講義を聞くことで、自分の知識を深めることができました。また、他の大学の学生や実際に教員として働いている方々とのグループワークを通して、自分とは違う意見を知り、自身の考えを見つめ直す良いきっかけにもなりました。活動の一環として模擬授業の練習を行う機会も豊富で、お互いの授業を見ることで、参加者同士がアドバイスをし合ったり、他の方の良い部分を参考として取り入れたりと、自分の授業をより高めることができたことは特に良かったです。同じ自治体の教員を目指す友達を作れたこともとても心強く感じました。

スクールライフサポーターには、2～3年生で参加したので、大学での学びを実際の現場で生かしたり、そこで出会う多様な子ども達に合わせた接し方を学んだりすることができました。児童の中には教員とコミュニケーションを図ることに困難さを感じる者もおり、初めは対話することが難しくとても苦労しました。しかし、その児童の好きなキャラクターや興味のある話をするなど、毎日辛抱強く声掛けをすることで、徐々に信頼関係が築かれ、心を開いてくれるようになりました。こうした経験を通して、子どもに寄り添った支援や言葉がけを行うことの大切さを学ぶことができました。

Q 教員を目指す後輩たちへ一言

A 実際の学校現場で活動することを通して、大学では学ぶことのできないたくさんのことを体験することができます。将来につながる活動が少しでもできると、教育実習や教員採用試験、実際に教員として働き始めた際に自分にとってとても助けになります。後輩の皆さんも、大学に行ったり、アルバイトをしたり、友達と遊んだりと、やることはたくさんあり、どれもとても大事な経験であるからこそ優先順位をつけることが難しいと思います。けれども、教職インターンシップへの参加を通して多くの学びがあるので、教職を目指している方は無理のない範囲でぜひ積極的に参加してみてほしいです。

学校教員の魅力とは?

教職キャリアアドバイザー

教職センターでは、現場経験豊富な先生が、「教職キャリアアドバイザー」として教員をめざすみなさんのさまざまな相談に対応しています。幼稚園、小学校、中学校・高等学校、特別支援学校それぞれの学校で園長や学校長として活躍してこられた経験豊富な先生方から、教員の魅力を皆さんにお伝えします。

幼稚園担当　川副 園美 Kawazoe Sonomi

幼児の「やりたい」「がんばりたい」を支える保育者に!

幼児は、やりたいことが見つかると楽しそうに遊びだします。遊びの中で小さな発見や気づきがあると夢中になって遊びが続いていきます。時には集中して真剣な表情に変わっていることもあります。どの幼児の顔も、遊びを楽しんでいる顔は輝いています。

幼児期は、生きる力のもとになる非認知能力(自己肯定感、意欲、協調性、社会と関わる力等)が育つ時期です。また、その能力は遊びを通して身についていくと言われています。その『遊び』を支えていくのは幼児の身近にいる保育者の存在です。幼児一人ひとりを丁寧に理解し、幼児の「やりたい」「がんばりたい」という思いを支えていくことが保育者に求められる姿だと考えます。

学生の皆さんは理論や実践を積み重ねながら保育の楽しさや難しさに出会っていくことと思います。皆さんにとっても「やりたい」と「がんばりたい」気持ちは自分自身の成長を支えていくことになります。一緒に保育について学んでいきましょう。

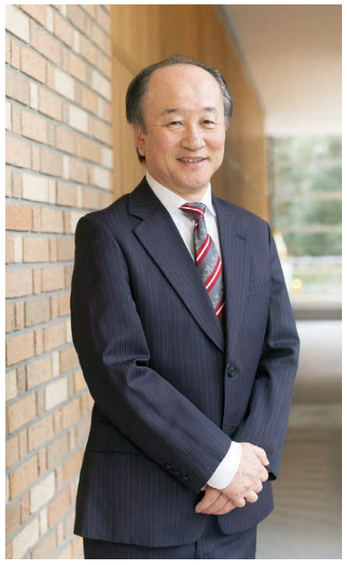
幼稚園担当　新井 智子 Arai Tomoko

子どもと感動を共にする未来が待っている

幼稚園教諭の多くが、仕事に就いた動機を「子どもが好き　幼稚園時代が楽しかった 先生がやさしかった」と話します。自分自身の幼い頃の体験が、職業を決定するほど心に残っているのです。もちろん、今もやりがいを感じながら生き生きと幼児教育に携わっています。子どもたちに遊びを通して様々なことを学んでほしい、生きる力の基礎を培ってほしいと、情熱をもって指導している姿に頼もしさを感じます。

同時に、教師自身が子どもたちの夢中になって遊ぶ姿に感動し、その姿から多くを学び、成長していることに気付かされます。子どもたちは、哲学者であり、科学者であり、クリエーターであり、そして柔らかで澄んだ心の持ち主です。

未来社会がどのように変化しても、大切なのは活力に満ちた人間中心の豊かな社会です。学校教育においても、その基礎である幼児教育を担う教師が、子どもたち一人ひとりに「豊かな子ども時代」を保証していかなければなりません。子どもが夢中になって遊ぶ姿にこそ豊かさの源があります。学生の皆さんには、「先生」として子どもと感動を共にする素晴らしい時が待っています。実現に向け、知識や実践力そして人間性を高める学びを深めていきましょう。



小学校担当　河村 一郎 Kawamura Ichiro

子供と共に成長する「先生」

皆さんが教職に就いて学校に勤めると、子供たちを始め保護者の皆さんなど周囲の人々から「先生」と呼ばれます。「先生」には、ともすれば完璧を求められているような印象があるかもしれません。

しかし、子供たちが求めているのは「自分たちにわかるように話をしてくれる先生」であり「自分たちの話を聞いてくれる先生」です。そうした子供たちとのかかわり合いが、「先生」にとっては最も大切だと言えるでしょう。

その一方で、よりより学級経営の進め方や授業の仕方など、若い教師には学ぶことが少なからずあります。それは誰もがひとつひとつ乗り越えていくハードルです。最初からベテランの教師と同じようにできないこともあります。ベテランの教師たちも、それまでに積み重ねた「経験」を生かすようにしなければ、学級経営や授業の力がついていくことはありません。

教師は、子供たちの成長を働きかけることが仕事です。子供たちの成長を実感するときに、教師は「やりがい」を味わいます。それと同時に、教師自らも、日々の子供への指導を通して、うまくいったこといかなかったことを振り返り、つぎは子供たちにどのように働きかけていけばよいかを考えながら成長していきます。

子供と共に、「先生」自身も、教師として人間として成長していく、それが教職だと考えます。

小学校担当　篠崎 芳弘 Shinozaki Yoshihiro

教師＝未来を創る仕事

「どんな教師になりたいですか?」この問いに教壇を目指す皆さんは何と答えますか。これまでも教育の現場は、よりよい学びを創り出してきました。では、未来を生きる子供たちに求められる力とは何でしょうか。高度情報化社会のもと、グローバル化の加速度的進展や人工知能(AI)の飛躍的進化といった変化が起きても、たくましく生き抜く力です。そのためには、教師は「答えを求める学び」から「疑問を探す学び」への転換を目指し、本業である「授業」を創造していくことが大切な仕事になります。さらに「主体的で対話的な深い学びの実現」を考え抜かなくてはなりません。崇高でやりがいのある役割を担っているのです。

皆さんが教師を志望した理由は様々だと思います。心に残る恩師との素敵な関わり合いを通して、同じ道を志した方も多いことでしょう。

困難に出会ったときに寄り添い、支えてくれた教師。学ぶことの楽しさをさりげなく教えてくれた教師。夢を熱く語っていた教師。今の子供たちも、そんな教師との出会いを待ち望んでいます。やる気に満ちたキラキラした眼差しで、思いに応えてくれる先生を見つめています。私は「教師＝未来を創る仕事」へのチャレンジをする皆さんのお手伝いができるように努めていきます。さあ、共に子供たちがドキドキ、ワクワクするような「学び」を創っていきましょう。

学校教員の魅力とは?

小学校担当　中嶋 のり子 Nakajima Noriko

きっと教師になってよかったと思える

以前、勤めていた学校で、教員になって一年目の職員の週指導計画の冊子の中に以下のような記述を見つけました。

> 金曜日にマット運動の最後の授業を行いました。初めのころと比べてできる技が増えたり、よりきれいにできるようになったりした児童の姿を目にして感動しました。そして、できるようになったことを喜んでいる児童の姿を見て私自身もうれしくなりました。授業を通して「できた」「わかった」と思えることの大切さを改めて感じ、これからも教材研究を大事にしていこうと思いました。

この文章の中には教職の魅力が凝縮されています。教職の魅力はいろいろありますが、その中でも特に次の三点が得難い魅力だと思っています。

一　感動する場面があふれています。

子供は教員の言葉かけ一つ、ほんの少しの手助けで、大きく成長する可能性を秘めています。関わる度合いが大きいほど感動も大きくなります。

二　大きなやりがいがあります。

「忘れられない人」に自分の恩師を挙げる人は少なくありません。次代を担う子供たちの成長に大きく関われることは、責任の重さとともに、大きなやりがいを感じる職業でもあります。

三　仲間とともに成長できます。

教師は利潤を求めず、常に、「子供のために」行動します。ですから、皆、ライバルではなく、仲間なのです。

皆さんもきっと「教員になってよかった。」と、思える日がくると思います。

特別支援学校　岩瀬 昌保 Iwase Masayasu

子どもたちの未来のために

「なぜ特別支援学校の教師になろうと思ったのですか」と問われたら、皆さんは、そのきっかけと覚悟を、それぞれの言葉で語れると思います。

特別支援学校は、子どもたちの未来に向けた生きる力を育む学校です。普通学校のように予め決められた教科書はありません。教師は、一人一人に合った目標を立て指導計画を作成し、教師同士で協力しながら、子どもたちに合う指導方法や教材を創り上げていきます。子どもたちは、教師との関わりを通してゆっくりと成長し、必要な支援を得ることで素晴らしい可能性を発揮します。子どもたちの成長を実感したとき、教師としての喜びとやりがいを感じるでしょう。ただ、うまくいかないこともあります。その時は、子どもとの関わりを振り返りながら、「子どもから学ぶ」ことを大切にして教師も一緒に成長していきます。

特別支援学校のみならず、普通校においても特別支援教育の重要性は高まっており、教師の持つ専門性として欠かせないものとなっています。学生の皆さんは、特別支援教育の知識と実践を積みながら、すべての子どもたちのための教師となれるよう学んでいきましょう。

中学・高等学校英語・社会担当　金子 勉 Kaneko Tsutomu

未来永劫に 人類の尊い営み

AIに象徴される科学技術の進歩はあまりに急速ですが、何故かすぐに古くなります。それに比べて、子どもの躾や教育活動は、有史以来未来永劫無くならない不滅の営みだと言われます。

「銀の金も玉も何せむに まされる宝子に如かめやも」山上憶良（万葉集）

まさしく子は宝です。その子の将来に一介の教師が光をあたえ、生涯にわたる希望をもたらします。また真逆のこともあり得ます。あまりに影響力が強いので世の批判を受けることも稀ではありません。そのくらいに厳しく奥の深い職業です。しかしそれだからこそ、成就したときの歓びや遣り甲斐は何事にも換えられません。「苦しみ経ての喜び」は生涯にわたって味わえる喜びです。

企業が血道をあげるような即物的で刹那的な営利には価値を置かず、大仰に言えば人類の幸福や平和のために教員は粉骨砕身します。

そんな尊い教育職に情熱を燃やす若者を歓迎します。地道に努力をし、明学の多くの先輩達に続こうとする後輩を私たちは心から応援します。

特別支援学校　奥野 康子 Okuno Yasuko

出会いと学び

新学期、新しいクラスの子どもとの出会いは、心地よい緊張感と期待に胸が弾みます。一年間の学校生活の中で子どもたちが学び育つ場面には、たくさんの感動が生まれます。

特別支援学校の教員が出会うのは、障害のある子どもたちだけではありません。子どもの成長を願う保護者との出会いでもあります。保護者の言葉に励まされることがありました。「他の子どもと比べて出来ないことばかり嘆いていた時がありました。でも今は、小さなことでも何か一つできるようになることが大きな喜びです。」連絡帳に書かれたコメントです。

医療、療育、福祉等多くの方々との出会いもあります。子どもを中心にチームが生まれ、教員は、その一員として教育という重要な役割を担います。

特別支援学校の教育は、その子の今を知り（実態把握）、それに即した学習計画をたてます。様々な指導方法はありますが、「授業」はいつも子どもやその集団に応じたオーダーメイドです。子どもの姿を見る力、チームの一員として意見に耳を傾け判断する力が求められます。子どもの「できた。わかった。もっとやってみたい。」と、学ぶ楽しさを知り成長する姿は、教員にとっても大きな喜びです。

教員となる先輩たちからのメッセージ

教員採用試験に合格した先輩たち。これから教員として教壇に立つ先輩たちにどのような大学生活を送ってきたかを聞いてみました。

小学校

小学校教諭
福馬 花純
Fukuma Kasumi
心理学部教育発達学科
東京都教員採用試験合格

教員を目指したきっかけは？

小学生の頃、担任の先生に憧れて教員という職業に興味を持つようになりました。また、中学生の頃に行った職場体験では、できなかったことができるようになる子どもの成長を何度も目にし、共に成長を実感し喜び合える点に魅力を感じました。

大学3年生の秋に、小学校で特別な支援を必要とする児童の介助員を始めたことも良い経験になっています。現在も週に2回参加しているこのボランティアから、子どもたちの困難さを理解し一人一人の特性を捉えた上で支援していく姿勢を学びました。これからの教員人生でもこの経験を生かしていきたいと感じています。

教員採用試験の準備はいつ頃から、どんな風に進めましたか？

一般企業への就職活動も少し考えましたが、これまでの自分を振り返る中で改めて教員の仕事に大きな魅力を感じ、受験を決意しました。

大学3年生の秋から自分が一番苦手とする小論文の勉強を始めました。教職キャリアアドバイザーの先生に毎週のように添削していただいたことで自分の型ができ、どんな問題がきても「はじめ・なか・おわり」を意識しながら、時間内に書きあげることができるようになりました。春休みからは教職教養と専門教養の勉強も始めました。まずは過去問を解いて自分の苦手を把握し、問題傾向を把握するようにしました。参考書を用いて繰り返し勉強し、5月の教育実習までに一通り勉強を終えました。途中、過去問の点数がなかなか伸びず辛かった時期もありましたが、努力し続ければ絶対に点数が伸びると信じて勉強を続けました。教育実習を終えてからの約1か月は過去問を解きながら苦手な部分を振り返る時間に当てました。

2次試験対策は、1次試験終了後すぐに始めました。教職キャリアアドバイザーの先生と模擬面接を何度も繰り返すうちに、自分の伝えたいことをなるべく簡潔にまとめて話せるようになりました。また、友達と学校に集まり、交代で面接官になって練習をしました。1人で練習するよりも先生方や友達に協力してもらい実際の面接のように練習する方がより効率的に感じました。

教職センターの利用について教えてください。

教職キャリアアドバイザーの先生はとても親身になって話を聞いてくださるので、分からないことや不安なことがあれば何でも相談していました。否定ではなく「どうしたらうまくいくか」といった的確な助言をくださるので、前向きな気持ちで頑張ろうと思えました。身近に相談できる場所があることは受験勉強を進める上でとても有難かったです。

自身が考える「教員採用試験の合格の秘訣」は何ですか？

小論文の対策です。東京都の場合、教職教養・専門教養・小論文の3つは同じ配点であるため、小論文の対策を早い内から積み重ねていると安心して他の勉強を進めることができます。他の2科目は暗記の部分も多いですが、小論文はそうではないので、どれだけ書く練習をしてきたかが本番で試されます。私は先生方に添削していただいた小論文を全てファイルにまとめておくことで、後で振り返った時に自分の努力を実感でき、自信につながりました。また、小論文の対策用に調べたことや考えたことは、そのまま面接練習にも役立ちました。

教員を目指す在学生へメッセージをお願いします。

私は、一緒に頑張った仲間や応援してくれた家族、そして親身になって教えてくださった先生方のおかげで最後まで一生懸命に頑張ることができ、合格につながりました。試験の時に大切なのは、人一倍努力してきたという自信と、「絶対に教員になりたい！」という強い意志です。これから教員を目指すみなさんも試験本番に自信と強い意志をもてるよう、悔いのないように受験勉強を頑張ってほしいと思います。教員採用試験は、長期戦で正直辛いと感じることもあると思いますが、そんな時は周りの人に相談したり息抜きをしたりしてみてください。私は、辛い受験勉強の中でもご褒美をつくってそれを楽しみに頑張ったり、4月から自分がどんな教員になっていたいか、理想の教師像をイメージさせながら過ごし、気持ちを高めたりしていました。ぜひ自分なりの方法で合格に向けて頑張ってください。心から応援しています。

中学校高等学校（英語）

高等学校英語科教諭
田中 亜季
Tanaka Aki
文学部英文学科
神奈川県教員採用試験合格

教員を目指したきっかけは？

中学生時代に、自分の好きな教えることや子どもと関わる仕事がしたいと思ったことをきっかけに、教員への憧れを抱いて大学に入学しました。教職課程での学びの中で、私自身もたくさんの先生と出会い、成長してきたことを実感し、「私自身も誰かの成長の助けになりたい」「人を育てるような仕事がしたい」と思うようになりました。

受験自治体は、自分が今まで過ごしてきた場所である神奈川県を選びました。私もこの土地で育ち、教育を受け、成長することができたので、次は自分が教員となり、自分が育った場所で生徒の成長に尽力したいと考えました。

教員採用試験の準備はいつ頃から、どんな風に進めましたか？

教員として働こうと決心したのは大学3年生の3月頃で、準備を始めたのはその年の夏頃でした。

最初は教職センターで過去問を借りて出題傾向を分析することから始め、次に時事通信社の通信講座を受講しました。教職教養と一般教養は、参考書と映像授業を使って要点を理解し、その知識をもとに演習問題に取り組みました。ある程度理解できたところで過去問にも取り組み、間違いが多い範囲があれば復習をしたり、間違えた問題をノートにまとめて覚えたりすることで知識を定着させていきました。専門科目である英語は、主に準1級の問題集や大学入試向けの問題集で対策を行いました。特に私が苦手だった長文とリスニングは、毎日数問ずつ継続的に取り組むことで少しずつ解けるようになりました。

2次試験の対策は、1次試験が終わった翌日から始めました。面接は想定される質問をノートに書き出し、自分の考えをまとめ、話す練習を繰り返し行いました。英文学科や教職課程の先生方に加え、教職キャリアアドバイザーの先生方にも何度も練習していただき、少しずつ改善していきました。英語面接については、同じく教員を目指す友人に面接相手になってもらい練習しました。

教職センターの利用について教えてください。

役立ったことは論作文などの添削と面接の練習です。3年生の2月頃から教職キャリアアドバイザーの先生に、毎週論作文の指導をしていただきました。また、2次試験の受験時に提出する自己アピール書と面接カードも添削していただきました。自分では気づくことのできない言葉遣いを指摘していただき、文章力の向上に繋げることができました。先生方は私の書きたいことを汲み取りながら共に文章を考えてくださったので、より適切な表現に変えていくことができました。

1次試験後からは面接練習を行い、話す長さや順番についてアドバイスをいただきました。小論文や面接の練習を通して先生方と教育や授業について話す機会が多くあり、自分の考えを深め、多様な考え方に気づくことができました。

自身が考える「教員採用試験の合格の秘訣」は何ですか？

まずスケジュール管理だと思います。限られた時間の中で、複数の学習や対策を並行して行わなければならないため、何にどのくらい時間を割かなければならないのかを常に考えながら取り組むことが大切です。例えば面接については、初めて練習をしたときに、考えをまとめて話すことや簡潔に話すことに、自分が思っている以上の難しさを感じました。英語の面接や模擬授業の対策も必要であるため、面接練習をもっと早くからやっておけば、自信を持って本番に臨めると思います。

次に、自分が取り組んでいる勉強法がしっかり合格に近づいているのかを客観視することも大切だと思います。結果がついてこない勉強法を繰り返していても成績が伸びないので、現在地を把握し、ゴールのために何がどれだけ必要なのかを常に考えながら対策に取り組むことが大切だと思います。

教員を目指す在学生へメッセージをお願いします。

長い時間を試験対策に費やすことはとても大変ですし、先の見えない不安を抱えることがたくさんあると思います。自分の思い通りにいかずに苦しい思いをすることもあると思います。しかし、どんなときでも周りには支えてくれる人がいることを忘れないでください。教員採用試験は1人の力では突破することが難しいと思います。だからこそ、周りの友達、家族、先生方を頼りながら少しずつ前に進んでください。どんなときでも「合格する」という目標を見失わず、自分の理想の教師像を常に思い浮かべながら頑張ってください。応援しています。

中学校高等学校（社会）

中学校社会科教諭 高山 千明

Takayama Chiaki
法学部政治学科
千葉県教員採用試験合格

教員を目指したきっかけは？

「子どもが健やかに成長し、生徒一人ひとりが自分の良さを実感できる教育活動をしたい」と考え、教員になりたいと強く思うようになりました。

私には兄と自分の能力差に悩んだ時期がありましたが、中学生時代の恩師が私の良さを発見し認めてくれたことから、自分らしさを大切に、前向きに物事を考えられるようになりました。この経験から、恩師のように一人ひとりの良さを発見し、生徒が前向きに生きるきっかけを与えられる教師になりたいと思うようになりました。

大学生活で、教員になるために取り組んだことを教えてください。

学内では子どもと関わる「児童教育研究会」というサークルに所属して子どもへのアプローチ法を実践的に学び、教育実習にも熱心に取り組みました。学外では、3年生の時に千葉県教育委員会が主催する「教師未来塾」に参加し、4年生では「ちば・たまごプロジェクト」にも参加しました。千葉県の先生方の教育に対する熱い思いを感じ、学校をより良い場所にするために一緒に尽力したいと思いました。千葉県の教員を目指そうと決意したのもこの経験がきっかけです。

教員採用試験の準備はいつ頃から、どんな風に進めましたか？

教員採用試験の受験を決心した時期は、大学3年生の6月頃です。民間企業への就職と迷い、企業でのインターンシップに参加することも検討しましたが、自分にとって教職課程との両立は難しいと考え、教員採用試験の受験を決めました。3年生の夏休みからは、私学教員適性検査を受けるための勉強を始めました。教職教養の対策から始め、その年の10月頃からは受験予定自治体の過去問や教職センターで申し込んだ通信講座を使い、専門教養も勉強しました。

教員採用試験の受験勉強でつらかったことはありますか？どのように乗り越えましたか？

歴史・地理・公民と、幅広い社会科の専門教養を効率的に学習する方法が分からず苦労しましたが、大学で開催している合格者体験報告会に参加したことをきっかけに徐々に焦りと不安が和らぎました。要点がまとまった参考書を使って頻出問題を重点的に学習し、分からない問題を教科書などで詳細に理解する、という勉強法を合格者から教えていただき、学習計画が立てやすくなりました。また、試験が終わるまではある程度のストレスは仕方ないと受け入れ、適度にリフレッシュしながら勉強を進めることも大切だと思います。

教職センターの利用について教えてください。

3年生の11月頃から4年生の5月頃まで週に1回、教職キャリアアドバイザーの先生に小論文の添削をしていただきました。最初は書き方が分からず苦労しましたが、先生方にご指導いただき徐々に書き方が分かりました。小論文のお題に対して先生の見解を教えてくださったことも、教職に対する理解を深めることにつながりました。

6月は教育実習に集中し、7月以降は主に面接練習をしていただきました。小論文対策を通して教職に対する理解を深めたことは、面接にも活きたと思います。小論文の試験がない自治体を受験する方も、小論文を書き、教職キャリアアドバイザーの先生方に指導いただくことをおすすめします。

教員を目指す在学生へメッセージをお願いします。

このページをここまで読んでくださり、ありがとうございます。教員採用試験に対して「自分には難しいかも」と思っている方がいるかもしれません。しかし明治学院大学では、教職センターの方々や、教職キャリアアドバイザーの先生方、教職課程の先生方が親身に相談に乗ってくださいます。また、合格者体験報告会などにおいては、合格した先輩方に相談できる機会もあります。私も3年生の頃には不安でたまりませんでしたが、教員採用試験に合格することができました。1人で抱え込むのではく、様々な人を頼ってアドバイスをいただき、少しずつ合格への歩みを進めてください。応援しています！

特別支援学校

特別支援学校教諭 宅見 俊哉

Takumi Toshiya
心理学部教育発達学科
東京都教員採用試験合格

教員を目指したきっかけは？

もともと将来は教員として子どもと関わる活動がしたいと考えていましたが、妹が特別支援学校に通っており、幼少の頃からさまざまな面で支援が必要な子どもやその保護者が身近にいたこともきっかけになっていると思います。特別な支援を要する子どもへの支援と指導に特に関心が湧くようになり、大学卒業後は特別支援学校の教員になりたいと考えるようになりました。

大学生活で、教員になるために取り組んだことを教えてください。

「教員になりたい」という思いと「特別支援教育について学びたい」という希望をもって大学に入学し、日々の学びに全力で取り組みました。教員を目指すうえでは、様々な考え方が重要になると思い、学生同士のディスカッションやグループワークに一生懸命に取り組みました。また、在学中に都内の特別支援学校で学生ボランティアに参加し、児童の学習や生活面での支援を行いました。学生のうちから実際の教育現場を目の当たりにし、一人一人の特性を理解することや、それぞれの実態に合った課題設定をすることの重要性を学びました。

教員採用試験の受験勉強でつらかったことはありますか？どのように乗り越えましたか？

決められた字数や構成に従いながら、自分の考えを小論文として表現することは難しいことだと感じました。そのため、教職キャリアアドバイザーの先生にたくさん指導いただき、何度も練習することで慣れるようにしました。文章作成時には、特別支援学校でボランティアをした際に見聞きしたことや感銘を受けたことを盛り込むよう心がけ、今では自分の型を確立できたと思います。面接も同様で、最初は言葉が長くなってしまったり、伝えたい内容から逸れていったりしがちでしたが、段々と端的に伝えることができるようになりました。

教職センターの利用について教えてください。

実際に教育現場を経験された教職キャリアアドバイザーの先生方からアドバイスをいただけるのは受験対策に大変心強いものでした。教員を目指すうえで学生時代に経験しておくべきことや習得しておくべき知識について、個別相談を通して教えていただきました。

また、複数の自治体を志望する学生で構成された対策講座では、他の学生の考えを聞くことができたり意見交換をする機会があったりしたので、自分一人では思いつかない考えを取り入れることができ、参加して良かったです。

自身が考える「教員採用試験の合格の秘訣」は何ですか？

やはり早めから対策をしておくに越したことはないと思います。例年の情報を参考に、試験日程や志望自治体で課される試験内容を早く把握しておくことで、準備をスムーズに進めることができます。私は試験当日の2日前まで教育実習に取り組んでおり、直前の追い込みや確認が十分にできない状況でした。そのため、専門教養などの筆記試験対策は3年生の春休みから取り掛かり、教育実習が始まる前には過去問を複数回解いておきました。色々なことを逆算して取り掛かることは、受験対策において大切だったことの一つです。

また、知識を取り入れることも必要ですが、小論文や面接練習に取り組む時間を多く設けることも重要です。そうすることで、本番がいつもの延長線になり、当日も「いつも通りに解き、受け答えをすればいい」と余計な緊張をほぐすことができると思います。

教員を目指す在学生へメッセージをお願いします。

教員採用試験を受けることは一般的な就職活動と違いますし、教育実習と並行して取り組むということを考えると、辛いと感じることもあると思います。私自身も今何をすべきか迷い不安を感じることもありました。しかし、仲間と情報交換したり教職センターを利用したりすることで自分に合った対策方法を見つけることができました。皆さんにも必ず周りにサポートしてくれる方々がたくさんいると思いますので、教員になるという強い思いを持ち続けて頑張って下さい。応援しています！

幼稚園

幼稚園教諭
村田 萌歌
Murata Moeka

心理学部教育発達学科
特別区職員（保育・教育枠）
採用試験合格

教員を目指したきっかけは？

教員を目指した理由は、子どもが大好きだからです。幼い頃から年下のいとこと遊ぶ機会が多くあり、子どもの世話をするのが好きでした。高校3年生の進路選択の際に母園でボランティアをさせていただき、改めて子どもに直接関わる仕事をしたいと思い、幼稚園教員を目指すようになりました。

大学生活で、教員になるために取り組んだことを教えてください。

大学3年生の12月頃から、港区の区立幼稚園でのアルバイトを開始し、週1～2回程、介助員として保育に参加しました。特別な支援を必要とする幼児への個別対応に加えて、幼児の個性を引き出し、より伸ばす保育の工夫や声がけの仕方を、現場の先生方から学びました。先生方の姿を見ながら試験対策期間を過ごしたことは「合格したらこんな未来が待っているんだ」、と自分のやる気を鼓舞し向上心を高めたように感じます。

教職センターの利用について教えてください。

特別区の幼稚園教員および園長の経験がある教職キャリアアドバイザーの先生のもとで、実践的な対策に取り組むとともに、実際に教員になってからのことを教えていただきました。大学3年生の11月から教職キャリアアドバイザーに進路相談をし、翌月12月からは週に1回の個別相談も利用しました。

また、月毎に定期的に行われる「幼児教育・保育を考える会」という勉強会にも参加していました。実践的な保育を学ぶことで現場での力を高めることができるため、実際に幼稚園教員になったときの自分の姿をより明確に想像できる良い機会となりました。

教員採用試験の受験勉強でつらかったことはありますか？どのように乗り越えましたか？

受験勉強期間には、択一問題の回答率が低迷したり、幼児の発達段階に関する知識や経験不足のため、論作文の作成が壁に感じたりすることがありました。また、特別区の幼稚園教諭採用試験は、2次試験の合格発表が4年生の9月にあるため、「そこで落ちてしまったら自分の将来はどうなるのだろう」「1次試験が合格しても2次試験は合格できるのか」などの不安もありました。

そんなときには、教職キャリアアドバイザーの先生方に相談し、その都度不安を解消するようにしていました。択一問題の点数や論作文の精度については、幼稚園教育要領を読み込み自分の中に落とし込むことが向上に繋がったので、諦めずに繰り返し行うことが大切だと学びました。先生方は、問題解説や論文添削などを丁寧に行ってくださるだけでなく、試験準備中に感じる不安などの個人的な悩み相談にも応じてくださいました。試験対策はもちろんのこと、2次試験の合格が発表されるまで、精神的にも支えていただいたと感じています。

教員を目指す在学生へメッセージをお願いします。

教員採用試験は一般企業に比べて実施時期が遅く、周りの友達と比べて焦ったり不安になったりすることが多く、心配だと思います。ですが、過去問や先輩方の体験談をもとに傾向に基づいた対策を計画的に行えば、確実に合格を見込める試験だと思います。教職センターには教職を目指す学生に向けたサービスが多くあるため、自身で選択し、有効に活用しながら対策をしていってください。自分の理想とする教員像を日々想像しながら、夢の実現に向けて頑張ってください。応援しています。

幼児教育・保育を考える会

よくある質問 Q&A

窓口で学生のみなさんからよく尋ねられる質問をいくつかまとめてみました。回答は所属する学科や履修条件によって異なることもありますので、詳細は必ず担当窓口で相談してください。

Q 教員免許状の取得には何年間かかるのでしょうか？

A 基本的に大学のカリキュラムは卒業までの4年間での履修を想定したカリキュラムとなっています。3年次秋学期終了時に一定の科目を修得していないと教育実習に行けません。もし2年次以降に教員免許の取得を考え始めた方は、教務部窓口で履修方法や手続等を相談してください。

Q 履修登録をしようとしたら、学科の必修科目と教職科目の開講曜時限が重なっていました。どうしたらよいですか？

A 履修方法や授業に関する相談は、教務部窓口で行うことができます。

Q 自分の学科で取得できない教員免許状を取得したいのですが、できますか？

A 「他学科聴講」という方法で取得できる場合があります。また小学校免許の場合、提携先となる大学の免許状取得プログラムで取得できる学科もあります（6ページ参照）。いずれも自分の学科で取得できる免許に加え、新たに別の免許の取得をめざすことになりますので、その分履修し単位を修得しなければならない科目が増えることになります。「他学科聴講」の注意点等の詳細は、教務部教職窓口でお尋ねください。

教員免許の取得にかかわる質問

Q 在学中に留学に行きたいのですが、教員免許の取得と両立は可能ですか？

A これまでも、教員免許の取得をめざしながら留学した先輩がいますので、両立は不可能ではありません。ただし教育実習の時期等については事前に教務部窓口で相談してください。卒業時までに教員免許取得に必要な単位を満たせない場合は、卒業後、科目等履修生として不足単位を修得することにより免許状の取得が可能です。

Q 中学校の先生になりたいなら中学校の、高校の先生になりたいなら高校の免許だけ取得すればよいですか？

A 中学または高校の先生をめざす方は、なるべく中学と高校と併せての取得を勧めます。教員採用試験において両方の免許取得を受験資格としている自治体があるためです（例：東京都）。また中高を併設している私立学校などは、両方の免許を取得している人材を求める場合があります。

Q 歴史の先生になりたい場合は地理・歴史だけ、政治・経済の先生になりたいなら公民だけを取得すればよいですか？

A そうとは限りません。高校の、特に社会科の先生をめざす方は、地理・歴史と公民両方の免許取得が必要な場合があります。両方の免許取得を教員採用試験の受験資格とする自治体があるためです（例：神奈川県高校社会科）。また自治体によっては、複数免許を取得している場合、採用試験において加点措置を行う場合もあります。詳細は自治体の採用試験要綱で確認してください。

Q 幼稚園教諭をめざしていますが、保育士の資格も取得した方がいいですか？

A 幼稚園教諭をめざす方は、在学中に保育士試験に挑戦し保育士資格を取得することを勧めます。近年増加している認定こども園（16ページ参照）では、幼稚園教諭と保育士資格の両方が必要になります。大学では「保育士資格取得対策講座」を開講していますので、活用してください。この講座は教職センターで申し込むことができます。

教員採用試験にかかわる質問

Q 教員採用試験対策はいつから始めればよいですか？

A 筆記試験に向けた対策としては、3年生の夏頃から始める先輩が多いです。ただし教員養成の基礎科目となる授業は1年生から始まっています。この授業での学びが教員採用試験に結びついていますので1年生のうちから授業を大切に学業に励むことが大切です。また、学校現場を理解する学校ボランティアを経験することにより教員をめざす意欲が一層強くなりますので、学校ボランティアを経験しておくとよいでしょう。

※自治体によっては、公立学校の教員採用試験の早期化が実施されています。最新の情報に注意しましょう。

Q 教員採用試験は難しいですか？どのように勉強すればよいですか？

A めざす学校区分、教科、地域ごとによって倍率は大きく異なります。希望する自治体のホームページや教職センターにある資料で今年度の状況を確認してみましょう。倍率が高い学校種においても、毎年多くの先輩が教員となり教育に携わっています。しっかりとした準備を行うことが結果に結びつきます。筆記試験対策の通信講座も教職センターで申込可能ですのでぜひ受講してください。

Q 公立学校の教員採用試験は複数の自治体を併願できますか？

A 試験の日程が重ならなければ併願は可能ですが、多くの先輩は一つの自治体に絞って受験をしています。隣接する自治体では一次試験の日程が重なるケースが多いこと、また自治体により試験内容や傾向が異なるため学習のポイントが絞れないことがその理由です。受験する自治体の選択について迷った場合は、教職センターに相談にいらしてください。

Q 公立学校の教員採用試験を受験予定です。もし不合格の場合、その後の進路はどうなりますか。

A 自治体により時期が異なりますが、教員採用試験の最終試験結果が出揃うのは、4年生の秋頃です。不合格の場合は、各自治体の「臨時的任用教員登録」を行う方が多いです。登録方法については各自治体の教育委員会のホームページなどをご確認ください。この登録をした場合、各学校で欠員が生じた際に教育委員会や校長との面接を経て「臨時的任用教員」（5ページ参照）として働くことができます。このように臨時的任用教員として1年間働きながら、次年度の教員採用試験受験を目指すというのが一般的です。学校現場で積んだ経験は、2回目の教員採用試験において大きな強みになります。ただし臨時的任用教員として働く場合、採用試験の勉強に割ける時間は少なくなりますので、自身の苦手分野は在学中にしっかり復習するなど計画的に勉強する必要があります。
なお、私立学校に進路変更をする方もいますが、私立の小学校や特別支援学校は学校数が少なく毎年募集があるとは限りません。そのため公立から私立への転向は、幼稚園や中学・高校のケースがほとんどと考えてください。
また大学院に進学して「専修教員免許」の取得を目指しながら、教員採用試験に再度チャレンジする方もいます。
心配なことがあればお気軽に教職センターにご相談ください。

進路選択にかかわる質問

Q 進路は「私立学校」を希望しています。大学に来ている求人情報はどこで見られますか？

A 教職センターで閲覧可能です。また明学生向けの就職支援システム「キャリクル」でも最新の求人情報がチェックできます。「キャリクル」は学生ポータルサイト「ポートヘボン」からログインします。

Q 教員になるか、企業に就職するか迷っています。どうしたらよいですか？

A 教員免許の取得を目指す一方、民間企業への就職も視野に入れて、就職活動もしたいという悩みを持つ方は少なくありません。しかし教育実習時期と就職活動時期は重なることも多いため、両立は簡単ではありません。就職活動を理由に教育実習の日程変更はできませんし、教育実習を受け入れてくださる実習校は「教員になるという強い意志を持った学生のみを受け入れたい」と考えています。
とはいえ双方に必要な準備をうまく活用しながら両立させた先輩もいます。
まずは、自分は本当に教員になりたいのか、どのような教員を目指しているのかを色々な観点から考えてみましょう。
なお、企業に就職した後、数年経ってから教員になろうと考える方もいますが、現在の教員不足の状況が今後も続くかどうかわかりません。安易に考えるのは禁物です。
迷っている方は、キャリアセンターや教職センターにお気軽に相談にいらしてください。

Q 私立学校の中でも「キリスト教学校」の求人を探しています。どうやって探せばいいですか。

A キリスト教学校の教員就職を目指す方は「キリスト教学校教育同盟」のホームページをぜひチェックしてください。https://www.k-doumei.or.jp/
キリスト教学校の教員を目指す方向けの就職支援登録を行うことができます。また各種講座も開催していますのでご確認ください。

Q 公立学校教員を目指していますが、受験する自治体はどうやって決めればよいのでしょうか。

A 受験自治体の決め方に決まりはありません。ほとんどの方が自身にゆかりのある自治体（出身地や学生時代を過ごした場所）を選んでいます。自治体ごとに教育目標や求める教員像は異なるので、しっかりと下調べをし、その自治体の志望理由を明確にする必要があります。

Q 東京都公立幼稚園の受験をするか、私立幼稚園か迷っています。もし東京都公立幼稚園が不合格だった場合、どのような進路が多いですか？また、東京都公立幼稚園と私立幼稚園の採用試験はいつ頃でしょうか？

A 東京都公立幼稚園に不合格だった場合、もう1年勉強して再チャレンジする方もいますし、私立幼稚園に就職する方もいます。
東京都公立幼稚園の採用試験は春から夏にかけて（13ページ参照）実施されます。
一般的に私立幼稚園の採用試験は夏～秋にかけて多くなります。

編　集　　明治学院大学教職センター（教育キャリア支援課）
〒108-8636　港区白金台1-2-37
電話03（5421）5896　メールcareerk@mguad.meijigakuin.ac.jp
デザイン・印刷　株式会社山栄プロセス

本誌はCOVID-19以前に撮影した写真とその後、新たに撮影した写真で構成されています。撮影は感染対策を万全にしたうえで行っております。

2024年3月発行